

八甲田山の火山活動解説資料（令和4年12月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

大川原監視カメラ及び地獄沼監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和5年1月分）は令和5年2月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

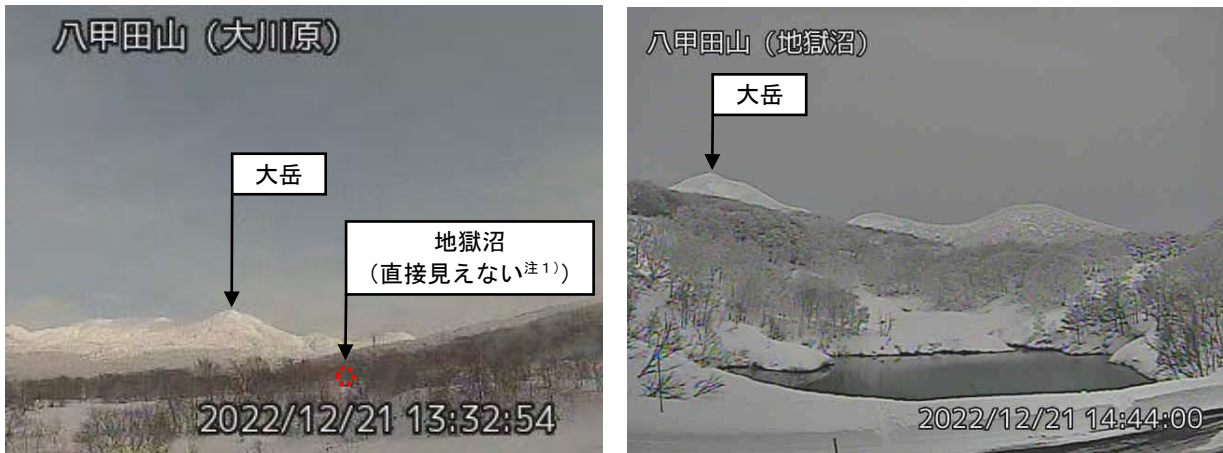


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺（12月21日）の状況

- ・左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像です。
- ・右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像です。
- ・注1）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原では高さ100m以上のときに観測されます。赤破線が地獄沼の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

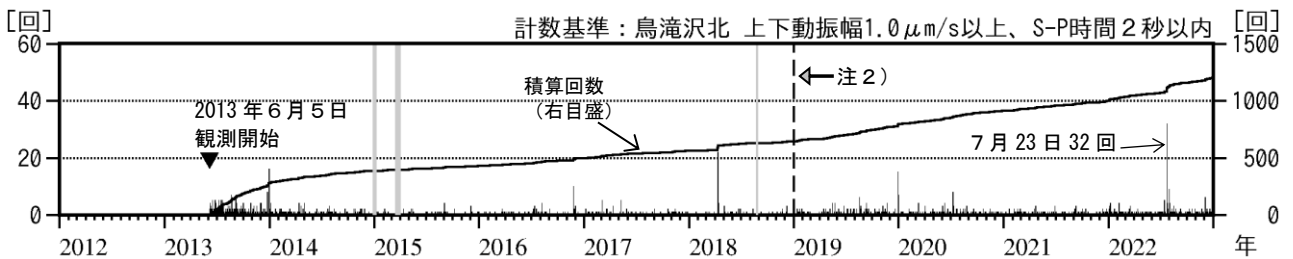


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2022年12月）

- ・計数基準の変遷は次のとおりです。変更に伴い検知力が向上しています。
観測開始 2013年6月5日～ 青森県沖揚平観測点 振幅1.0 μ m/s以上、S-P時間2秒以内
注2) 2019年1月1日～ 鳥滝沢北観測点 振幅1.0 μ m/s以上、S-P時間2秒以内
- ・灰色部分は欠測を表しています。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

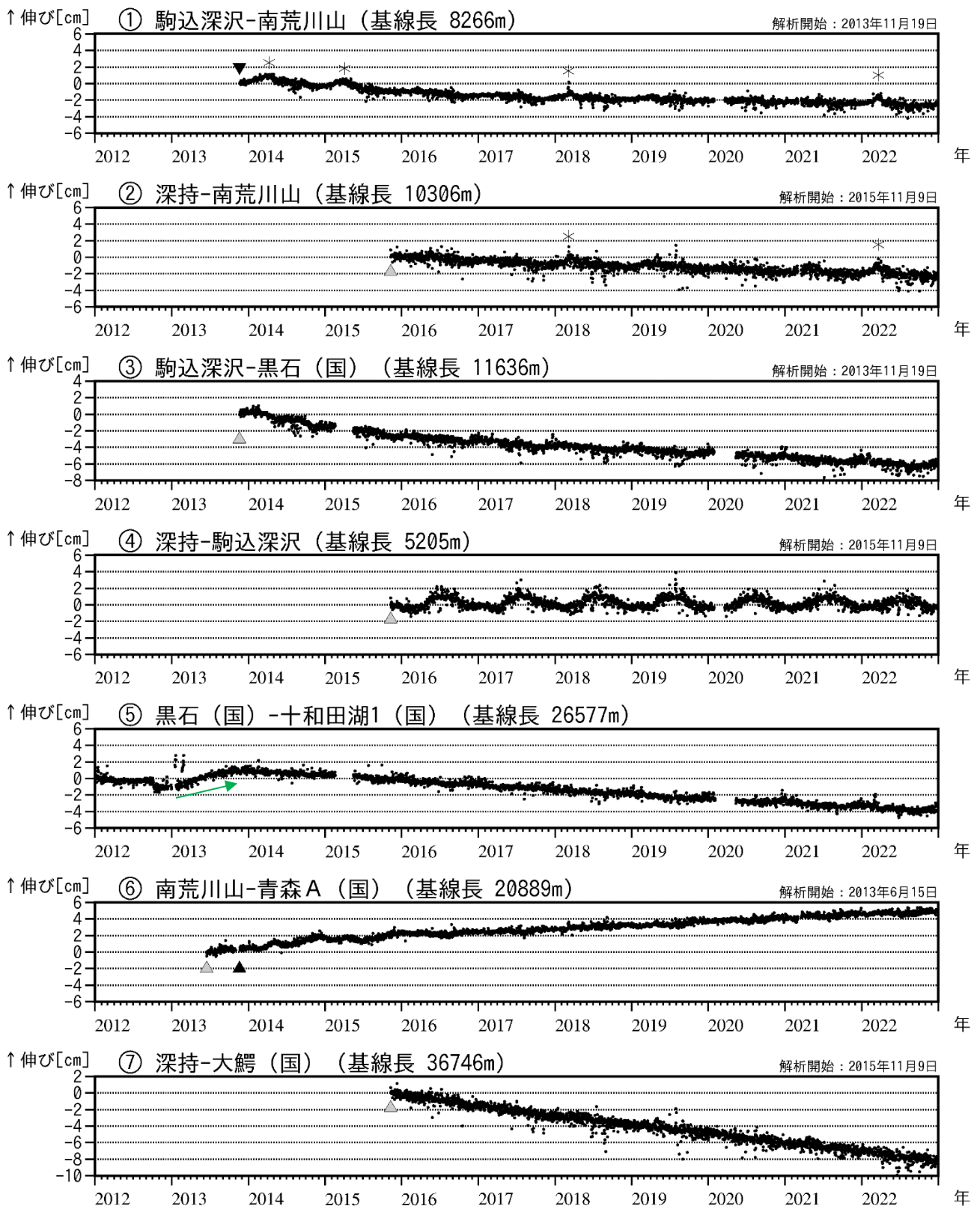


図3 八甲田山 GNSS 基線長変化図（2012年1月～2022年12月）

- ・①～⑦は図5のGNSS基線①～⑦に対応しています。 ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。
- ▲：解析開始を示します。
- *：南荒川山観測点における積雪等の影響による変化とみられ、火山活動に起因するものではないと考えられます。

2013年の地震活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されましたが、現在火山活動によると考えられる変化は認められていません。

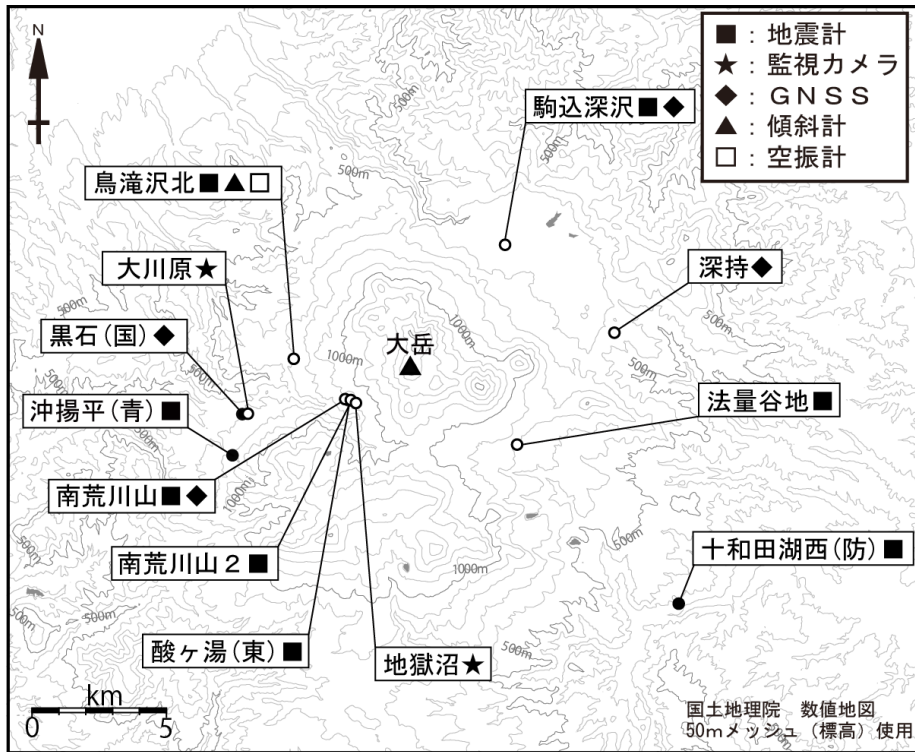


図4 八甲田山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所
（青）：青森県

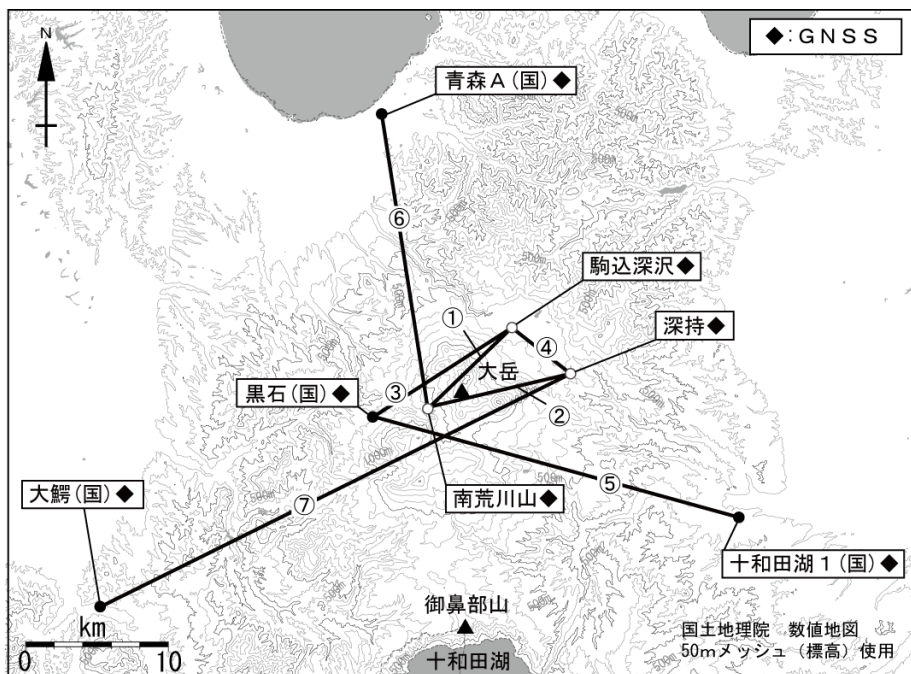


図5 八甲田山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院